

農業用トラクターの輸入



1. はじめに

函館税関が管轄する北海道は、耕地面積が全国分の4分の1以上に当たる114万1千ha(令和4年農林水産省『作物統計調査』)という広大な農地を有する一大農業地帯です(この耕地面積だけで秋田県の総面積に匹敵します)。

2020年農林業センサスによれば、全国的に1農業経営体当たりの耕地面積が拡大傾向にありますが、函館税関が管轄する北海道では特に100ha以上の面積を営農する経営体が増加しつつあり、これを管理するには農業用機械の導入が欠かせないものとなっております。

そこで、今回は農業用トラクター*の輸入について取り上げたいと思います。

<一口メモ>

トラクターは何をする機械なの？

トラクターは「牽引車」の別名のとおり、他の車両、機器又は貨物を牽引し又は押すために作った車輪式又は無限軌道式(キャタピラーやクローラとも呼ばれる)の車両のことです。

トラクターには、道具、種、肥料その他の物品を輸送するための補助器具を備えるもの、補助機能としての作業機器を取り付けるための装置を備えるものがあります。

取り付ける作業機器の一例として、ハーベスター(収穫用機械)、プラウ(犁、土を耕して土塊を反転させたりする工具)、ロータリー(回転する刃で土を耕したり除雪に使ったりするもの)、レベラー(土を均す器具)などがあります。

なお、これらの作業機器が取り付けられたトラクターを輸入する場合は、作業機器とトラクターを分離して輸入申告をすることになります。従って、今回の特集で取り上げるトラクターの輸入実績に付属品の類は含まれません。



* 本記事における「農業用トラクター」とは、貿易統計における輸入概況品目「農業用機械」(概況品コード70103)の細分である「トラクター(道路走行用のものを除く)」(概況品コード7010301)を集計したものです。この概況品目に属する統計品目番号の一覧については「データシート」をご覧ください。

2. 輸入の推移

函館税関管内の輸入実績を見てみると、比較可能な最初の年である1979（昭和54）年は100億円を超えており、その後は一時落ち込むものの、2013年には久々に100億円を突破。以降、増加傾向が続き、**2022年は2019年に次ぐ第2位の輸入額**となりました。

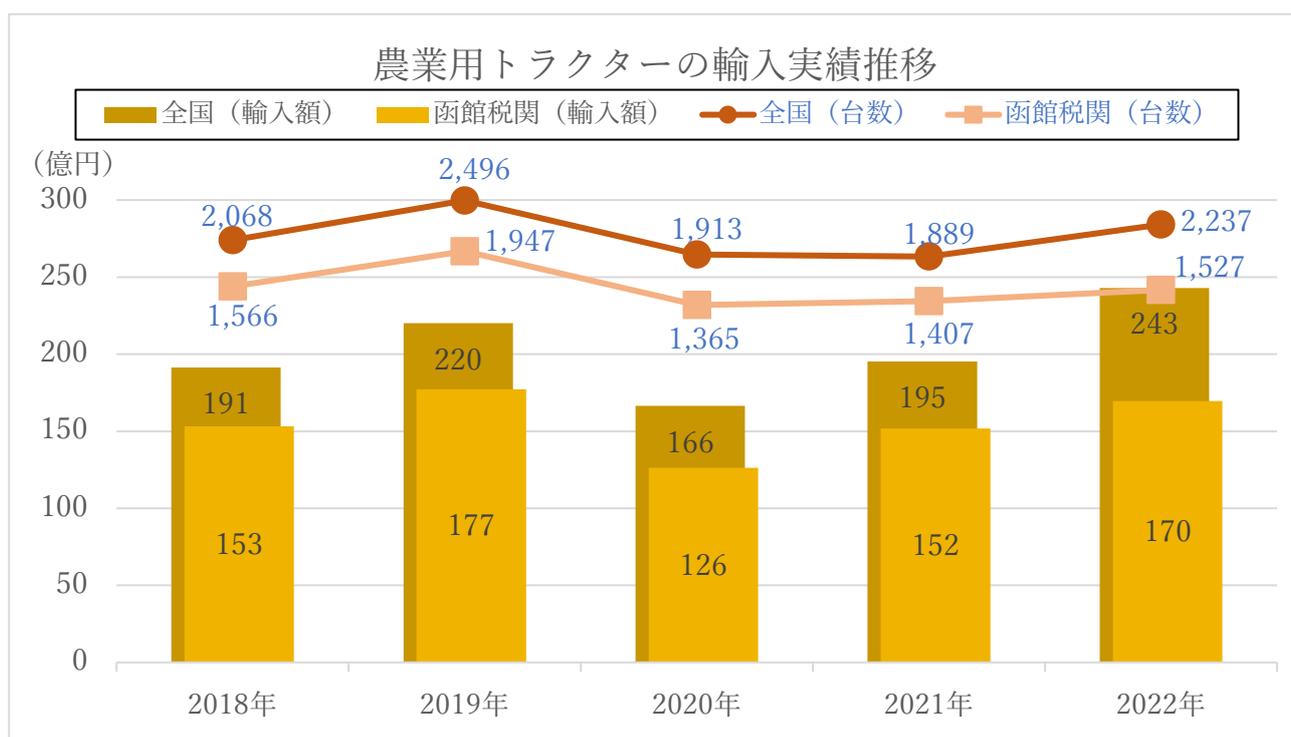
直近5年間の全国税関別輸入実績を見てみましょう。2022年の輸入数量は全国で2,237台でしたが、函館税関管内では、そのうち68.3%に当たる1,527台が輸入され、一方、輸入額は全国で243億1百万円でしたが、その内69.8%が函館管内分となっています。

以上のように7割程度のシェアを占める函館税関ですが、数量については2016年以降、価額については1998年以降連続で全国シェア1位となっています。

なお、函館税関の官署別データを見るとほとんどが苫小牧税関支署で輸入されており、通関後、主に北海道各地へと配送されることとなります。

（数量：台、金額：千円）

| 税関官署 | 2018年 | | 2019年 | | 2020年 | | 2021年 | | 2022年 | |
|------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|------------|
| | 数量 | 金額 |
| 合計 | 2,068 | 19,144,642 | 2,496 | 22,015,695 | 1,913 | 16,646,785 | 1,889 | 19,520,575 | 2,237 | 24,301,048 |
| 東京 | 31 | 56,666 | 26 | 226,197 | 4 | 21,934 | 12 | 38,751 | 42 | 232,605 |
| 横浜 | 205 | 2,474,607 | 243 | 2,980,666 | 248 | 2,771,000 | 258 | 3,107,393 | 360 | 4,829,520 |
| 神戸 | 43 | 64,351 | 19 | 50,448 | 33 | 216,352 | 11 | 34,612 | 11 | 44,796 |
| 大阪 | 76 | 139,929 | 132 | 204,893 | 131 | 187,593 | 37 | 76,185 | 47 | 109,936 |
| 名古屋 | 83 | 729,884 | 25 | 235,916 | 37 | 292,223 | 35 | 358,892 | 84 | 1,010,087 |
| 門司 | 57 | 328,380 | 100 | 569,840 | 94 | 534,252 | 128 | 731,210 | 166 | 1,123,455 |
| 長崎 | 2 | 5,863 | 1 | 777 | 0 | 0 | 1 | 1,270 | 0 | 0 |
| 函館 | 1,566 | 15,332,304 | 1,947 | 17,731,334 | 1,365 | 12,620,811 | 1,407 | 15,172,262 | 1,527 | 16,950,649 |
| 苫小牧 | 1,566 | 15,332,304 | 1,947 | 17,731,334 | 1,363 | 12,590,026 | 1,407 | 15,172,262 | 1,527 | 16,950,649 |
| 沖縄 | 5 | 12,658 | 3 | 15,624 | 1 | 2,620 | 0 | 0 | 0 | 0 |

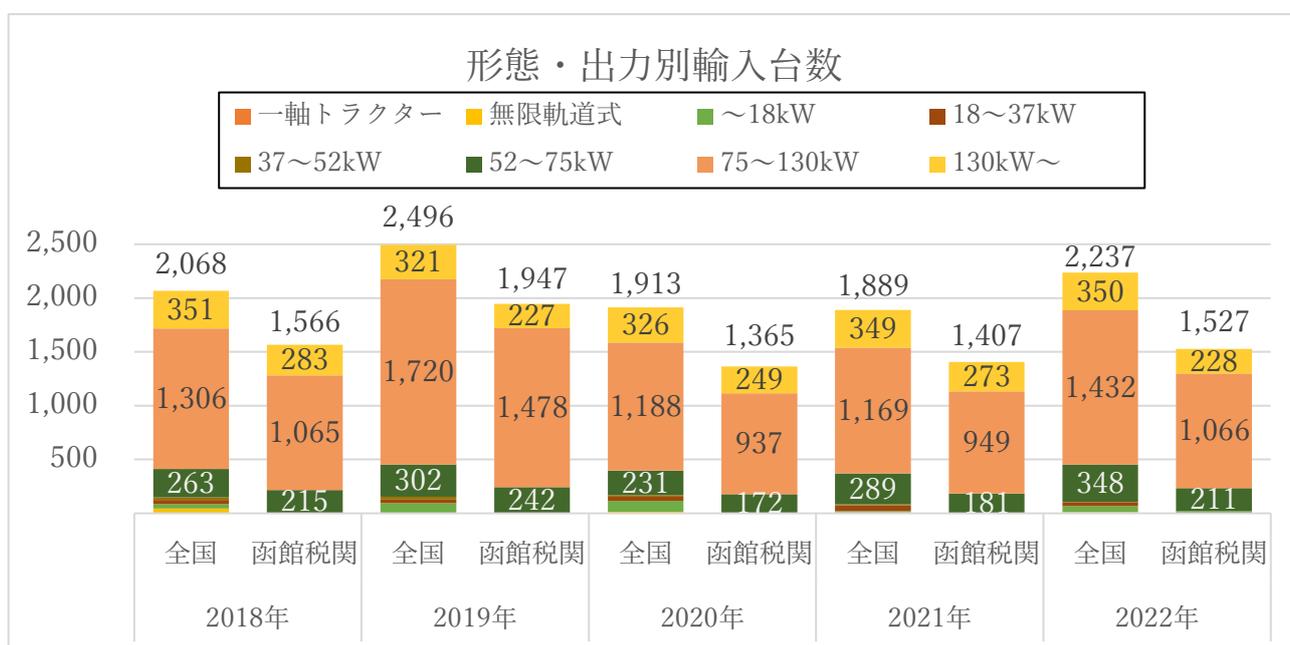


3. 分類別の動向

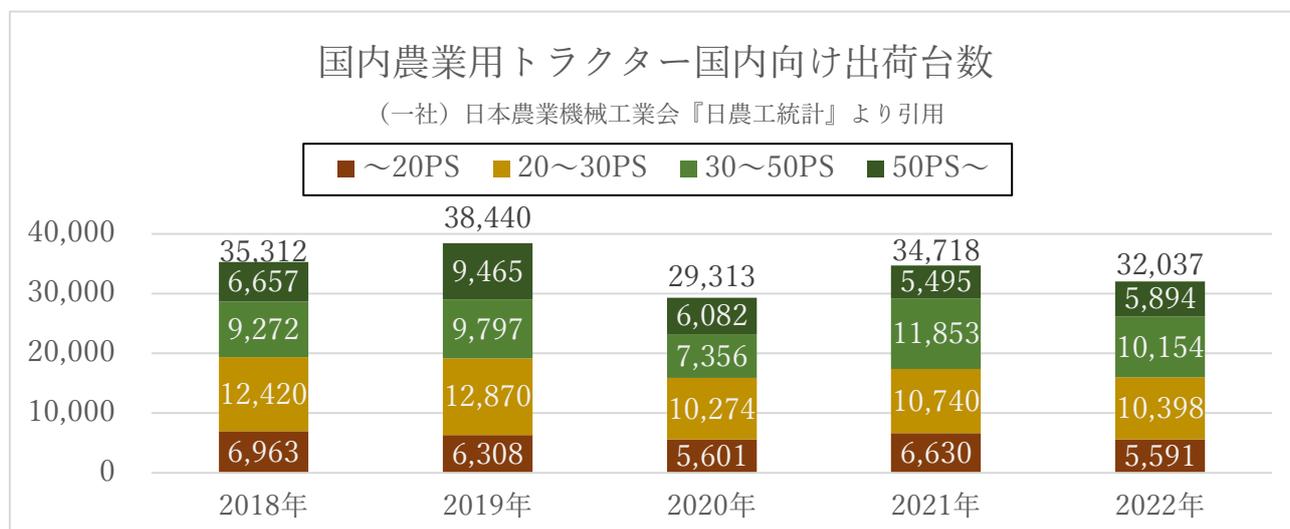
3.1 形態・出力別台数

今回対象とする農業用トラクターは、様々な付属品をつけることにより牧草・デントコーン等の収穫、播種、肥料散布など、幅広く使用されていますが、輸入の際は、その形態によって、統計品目番号により、一軸トラクター、無限軌道式のもの、「その他のもの」に大きく分類されます。2017年以降の統計細分では、「その他のもの」はその出力により6段階に細分化されています。

細分毎に見ると、出力が75~130kW(約102~177PS[†])のものが最も多く輸入されています。この出力帯の輸入が多い要因について関係者に取材したところ、海外では大規模農業が主流であることから大型トラクターを生産してきた歴史があり、北海道の農業も大規模化が進んでいることから、トラクターもこれに応じて高馬力のものが求められているとのことです。これら大型トラクターは、北海道の耕地面積の多くを占める飼料作物、小麦の耕作などで活躍しています。



一方で、国内製のものについては小規模農家向けにトラクターの普及が進んできた経緯から、車体が軽く、重作業には向かないものの小回りが利き管理作業向きである50PS以下のクラス帯を中心に市場が確立されているため、輸入品と棲み分けされていると考えられるということです。

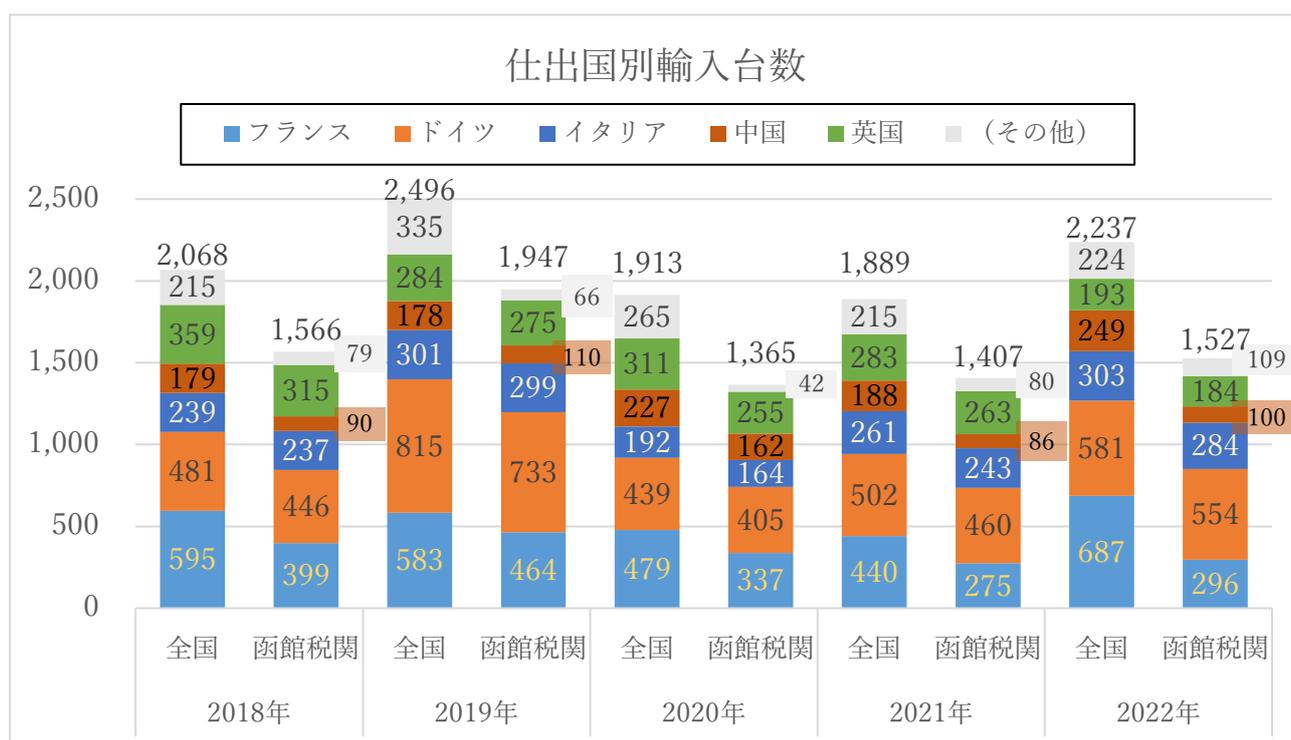
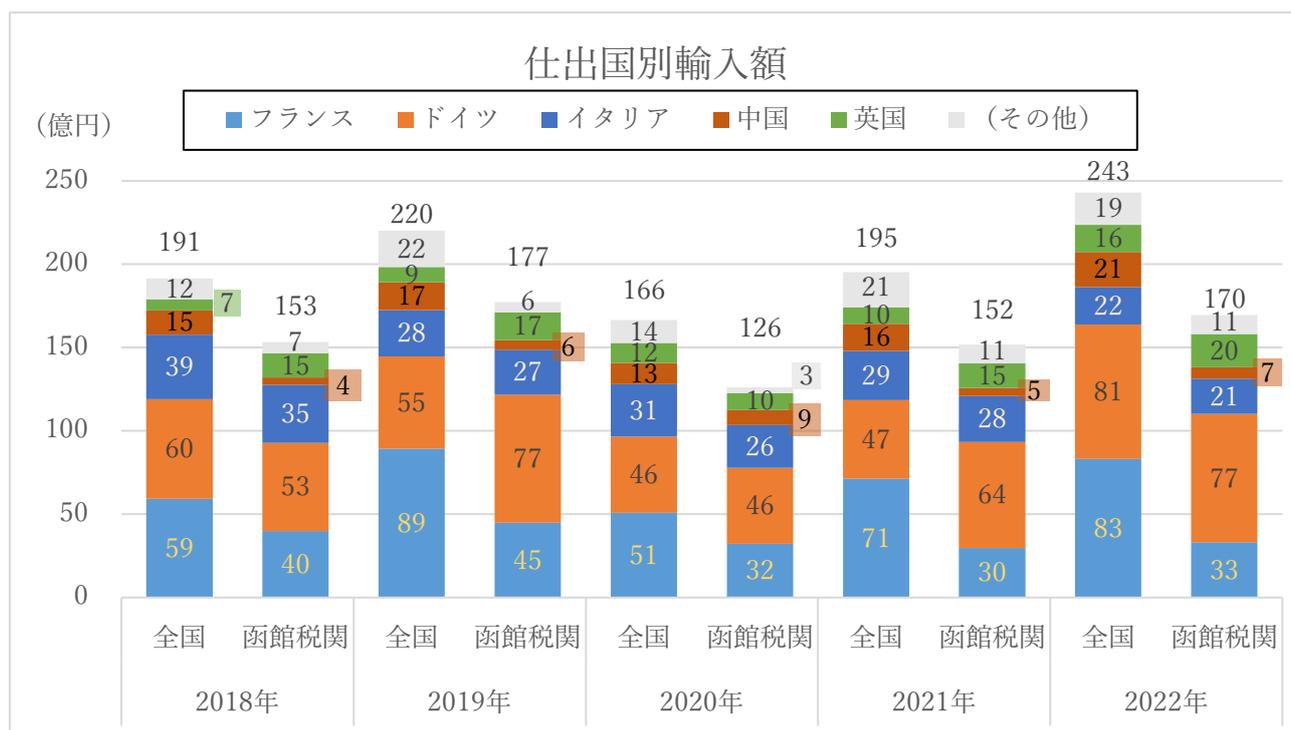


[†] PS(仏馬力)は仕事率の単位で、1PSは0.7355kW(キロワット)に相当します。

3.2 仕出国別シェア

仕出国別のシェアを見ていきましょう。全国分ではドイツ、フランス、イタリア、英国、中国が上位となっており、函館税関に限って見た場合でもこの5か国が上位となっています。これらで数量・価額ともに全体の約90%を占めています。

全国実績では、フランス製、中国製が特に増加している一方で、函館税関に限ってみるとドイツ産のものが根強い人気を誇っているようです。関係者への取材によると、ドイツのあるメーカーのものが、日本、特に北海道などの比較的大型のトラクターを使う利用者に人気が高いということでした。



4. あとがき

農林水産省の『農林水産物輸出入概況 2022 年（令和 4 年）（確々報）』によると、令和 4 年の「農林水産物・食品の輸出額」は約 1 兆 3,372 億円と過去最高となり、令和 3 年に引き続き 1 兆円を突破しました。農産物はこのうちの 66.3%に当たる 8,862 億円です。

また、同省では、担い手や労働力の確保が益々困難になると予想される中、家族経営を含む多様な担い手が地域の農業を維持・発展できるよう、新たな技術等を活用した省力的かつ生産性の高い農業経営モデルを、提示するなどしていることから、今後も農業用機械の需要の動向について、注視したいと思います。

【参考文献】

- 一般社団法人日本農業機械工業会『日農工統計』（各年データ）
- 農林水産省『農林水産物輸出入概況 2022 年（令和 4 年）（確々報）』
- 農林水産省『令和 4 年耕地及び作付面積統計』
- 農林水産省『2020 年農林業センサス』
- 国土交通省国土地理院『令和 5 年全国都道府県市区町村別面積調（1 月 1 日時点）』



【本資料に関する問い合わせ】

函館税関調査部調査統計課

〒040-8561 北海道函館市海岸町 24-4 函館港湾合同庁舎 3 階

TEL: 0138-40-4281

※本資料を引用する際は「函館税関の資料による」旨注記願います。

